

(別紙1)

令和6年度 実績報告書

(1) 事業名	糖尿病患者・家族を“救う”-佐賀から日本、世界基準へ-
(2) 実施期間	実施期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日
(3) 事業目的、背景	<p>(事業の目的)</p> <p>不治の病「1型糖尿病」の治療の質の維持及び予防の推進を図ることで、患者・家族が希望をもって生きられる社会を実現する。</p> <p>(事業の背景)</p> <p>糖尿病に関しては、20歳までは行政による医療費助成があるが、治らない病であるにも関わらず20歳以上の支援策が無い(佐賀県でも毎年国に対し政策提案を行われているが実現は厳しい状況が続いている)ことで患者が医療費を抑えるために治療の質が低下している。</p> <p>2005年に1型糖尿病研究基金を創設し、これまで172件約9.2億円の研究支援を決定しているが、患者・家族からの寄付は、「根治」「治療」研究に向きがちであり、将来の患者に対する「予防」研究には支援意識が低く予防研究費財源が厳しい現状にある。</p> <p>(本事業で解決を目指す地域課題)</p> <ul style="list-style-type: none">・県内の1型糖尿病患者が安心して医療(治療)を受けられる環境を実現することで「救える命を救う」に寄与・佐賀県を含む国民の糖尿病発症リスクを軽減することで「救える命を救う」に寄与
(4) 事業内容 ※できるだけ具体的に 記載してください。 ※事業内容を示すフロー 図等があれば添付可	<p>(事業の概要)</p> <p>以下の2本柱で実施した。</p> <p>1 成人の1型糖尿病患者への医療費助成</p> <p>県内の25歳まで(将来へ向けた生活基盤を整える期間)の成人1型糖尿病患者への医療費助成</p> <p>当法人が今回取り組んだ医療費助成の概要↓</p> <p>https://japan-iddm.net/life-info/healthexpenditure/</p> <p><参考>行政による小児慢性特定疾病医療費助成の概要</p> <p>↓18歳未満の児童等が対象</p> <p>https://www.shouman.jp/assist/outline</p>

2 糖尿病ワクチン開発の支援

佐賀大学医学部（研究代表者：永淵正法肝臓・糖尿病・内分泌内科特任教授）が行っている糖尿病ワクチン開発の支援

当該研究の概要↓

https://japan-iddm.net/wp-content/uploads/grant/report/013_SagaUniv_Nagafuchi.pdf

（実施スケジュール）

1 2024年6月以降に受付及び医療費助成（助成は4月に遡る）を開始

※なお、本年度で当該寄付金を使い切るのではなく、当法人の「1型糖尿病患者医療費支援基金（佐賀方式）」に積み立て、資金が続く限り医療費助成を継続して行きたい。

2 2025年3月24日に佐賀大学へ研究費助成を行った。

（実施地域）

- 1 佐賀県全域
- 2 佐賀大学医学部

（主な受益者・人数）

1 県内の25歳までの成人1型糖尿病患者：24名

2 佐賀県民を含む全国の糖尿病患者

ウイルス糖尿病予防コクサッキーBウイルスに対するワクチン効果：

（1）1型糖尿病患者に対する予防効果：年間約200～400人

佐賀県民の場合は、毎年2人を発症させないことができる。

（2）2型糖尿病患者に対する予防効果：年間約2000～4000人

佐賀県民の場合は、毎年30人を発症させないことができる。

※患者・家族は、発症すると「治らない」ことで「絶望」するので、一人でも発症させないことが願いである。

(5) 事業効果	<p>(事業効果及び県民が受けた便益)</p> <p>佐賀県が描く「人を大切に、世界に誇れる佐賀づくり」を目指し、CSO 主導による「いきいきと自発の地域づくり 唯一無二の地」の実践である。</p> <p>1 成人の1型糖尿病患者への医療費助成</p> <p>県内の25歳までの成人1型糖尿病患者が医療費助成を受けることで、医療の質を落とすことなく治療を継続することができた。</p> <p>なお、行政の小児慢性特定疾病医療費助成と同様な仕組みにしたことで、患者と審査する当法人双方に事務的負荷が多大なものとなった。当該年度末時点での医療費助成金交付率が39%に留まっている。</p> <p>費用対効果を再認識し、当該患者が最良の医療を受けられるよう次年度以降は改善しなければならないことを痛感した。</p> <p>2024年2月5日の佐賀新聞(1面)で紹介されて以降、患者・家族のみならず医療機関からも問い合わせが続き、県民の期待が大きい事業と再認識し、当法人の事業の柱として継続して行かなくてはならないという思いを強くした。県の担当課からも当該助成事業継続の期待を感じている。</p> <p>また、国会質疑でも取り上げられ、全国各地の自治体等からも問い合わせがある等注目されている。</p> <p>2025年4月からは自主財源で岡山でも成人1型糖尿病患者医療費助成(岡山方式)を開始するに至った。</p> <p>2 糖尿病ワクチン開発の支援</p> <p>研究代表者(永淵正法佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科特任教授)は、現在の進捗率は80%としており、成功すれば下記の効果が想定されている。</p> <p>(1) 1型糖尿病患者に対する予防効果： 年間約200～400名(うち県民は年2名程度が発症しなくなる)</p> <p>(2) 2型糖尿病患者に対する予防効果： 年間約2000～4000名(うち県民は年30名程度が発症しなくなる)</p> <p>(効果が及んだ地域)</p> <p>1 佐賀県内全域</p> <p>2 ワクチン開発が成功すれば「佐賀県をはじめ全国、全世界」に及ぶ。</p>
----------	---

<p>(6) 連携先・連携内容 (県、市町、企業、団体等)</p>	<p>連携した団体及び連携内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 佐賀県の小児慢性特定疾病担当課（こども家庭課）： 当該支援策の医療機関及び患者・家族への周知 2 佐賀大学医学部 <ol style="list-style-type: none"> (1) 成人の1型糖尿病患者への医療費助成審査にあたっての助言 (2) 糖尿病ワクチン開発の研究推進
---------------------------------------	--

※記載欄が不足する場合には、適宜、欄を拡大してください。